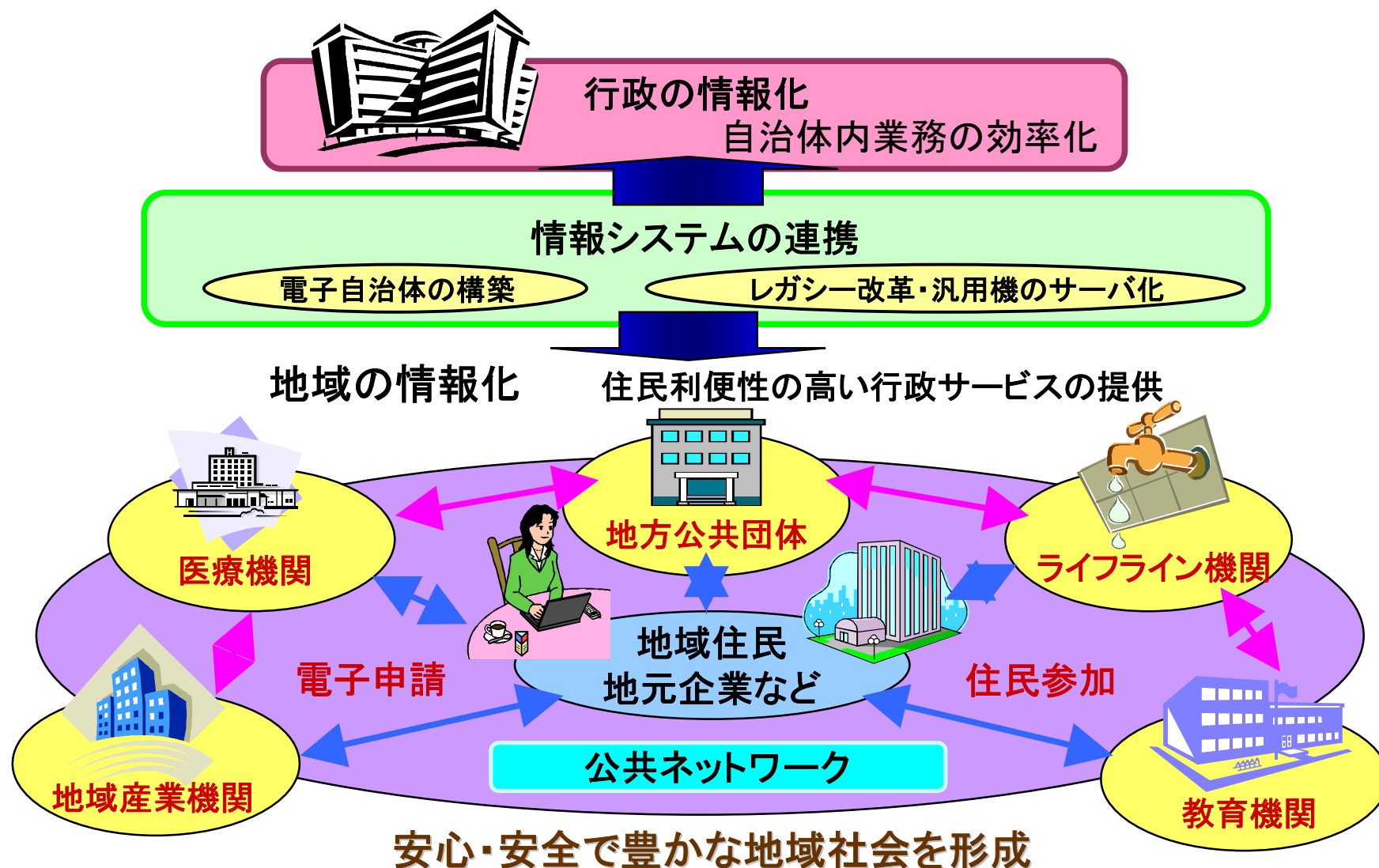

地域情報プラットフォーム 技術標準化WG報告

1. 地域情報プラットフォーム標準仕様策定の背景
2. 標準仕様策定の指針
3. 地域情報プラットフォーム標準仕様

全国地域情報化推進協会

地域情報プラットフォーム標準仕様策定の背景 ～ユビキタスネットワーク社会に向けて～



自治体に求められる取り組み

～『作り変え型』から『成長・発展・継承型』システム構築へ～

- ◆システム全体の最適化を図ることによる二重開発の抑止
- ◆今までのIT投資を利用した無駄のない段階的な再構築
- ◆既存資産を活かした新規サービスの短期実現

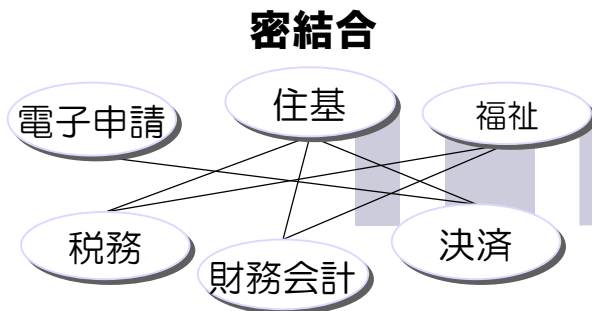
【従来のシステム（As-Is）】

《構築》

システム
作りこみ

《時間が経過すると》

環境変化に伴い、徐々に
硬直化/複雑化/陳腐化



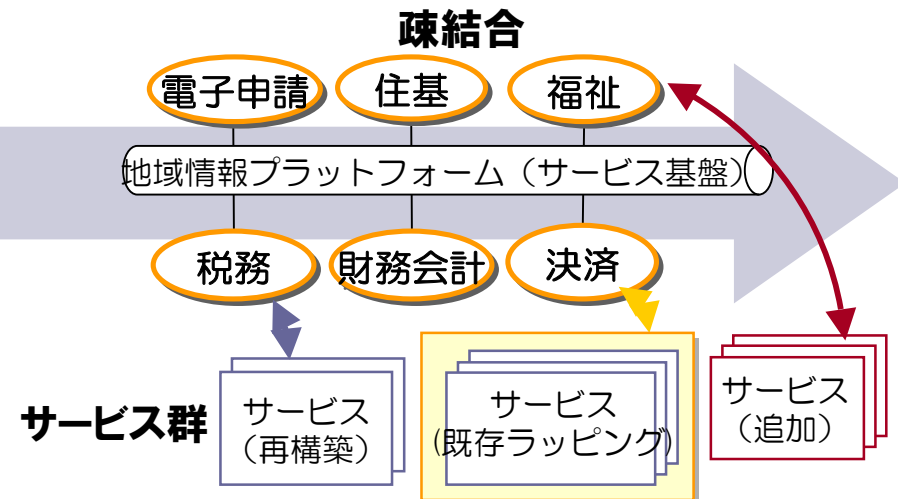
【今後のシステム（To-Be）】

《構築》

サービス
組合せ

《時間が経過すると》

既存資産を有効に継承し、変化に柔軟
に対応し段階的に成長するシステム



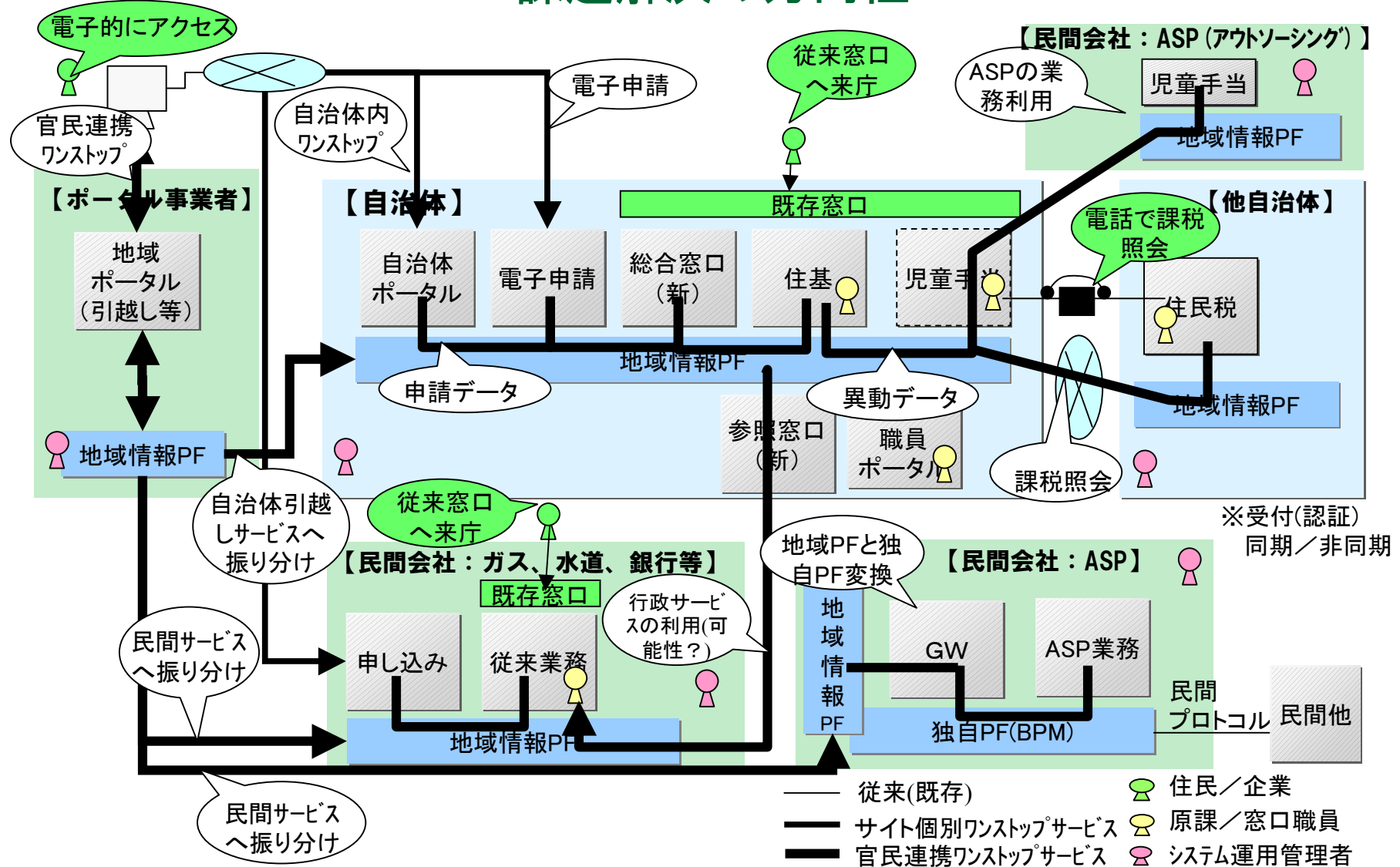
標準化の実現にむけて

～地域情報プラットフォーム適用のメリット～

- 自治体に : 現場改革を支える業務間連携の基盤を提供
- 民間企業に : 仕様のオープン化によるビジネスチャンスの拡大
- 住民に : 質の高い行政サービスの享受



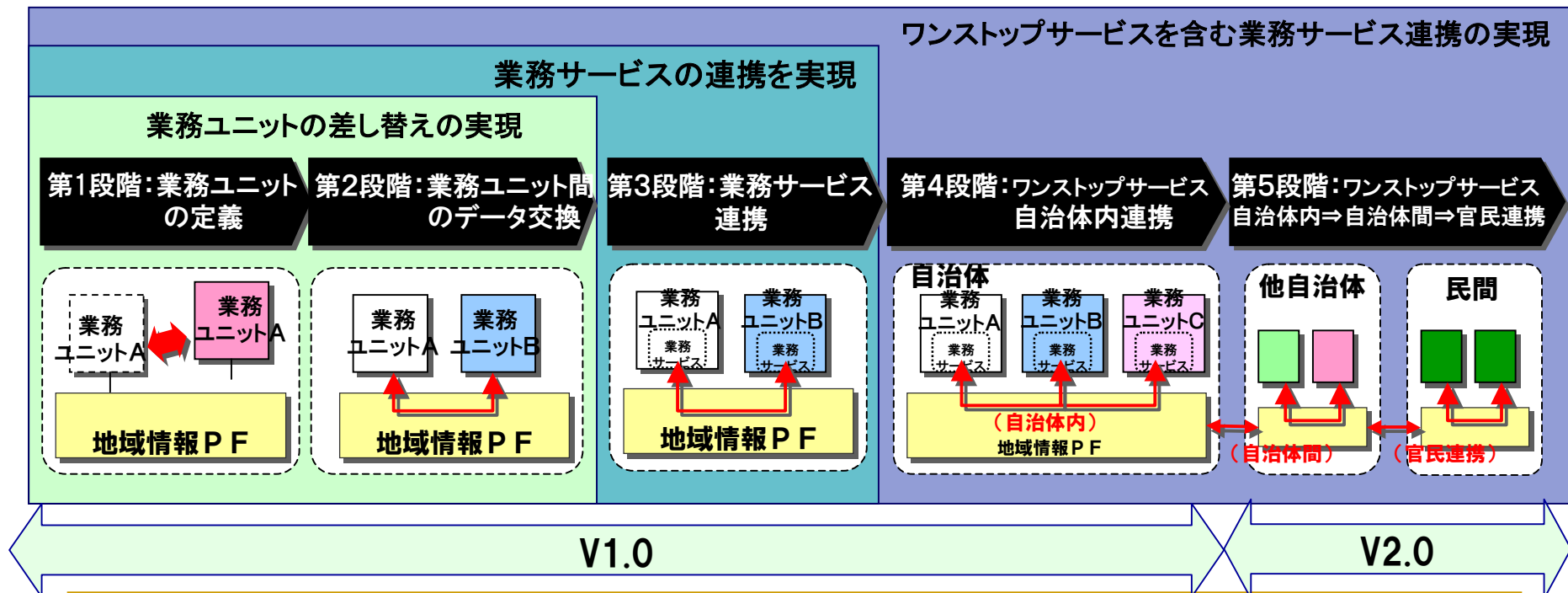
標準仕様策定の指針 ～課題解決の方向性～



地域情報プラットフォームの要件

プラットフォームの要件

- (1) 業務ユニット単位の差し替え（マルチベンダ化）が実現できるICT基盤であること
（業務ユニットを差し替えるための業務ユニットのインタフェース定義を含む）
- (2) 業務サービスの連携が実現できるICT基盤であること
- (3) ワンストップサービスをも実現するICT基盤であること（自治体内、自治体間、自治体と民間間）
- (4) 上記(1)(2)(3)のいずれかを「開発」、「実行」、「運用」の観点で、仕様として規定すること
（特定の実装物ではない）



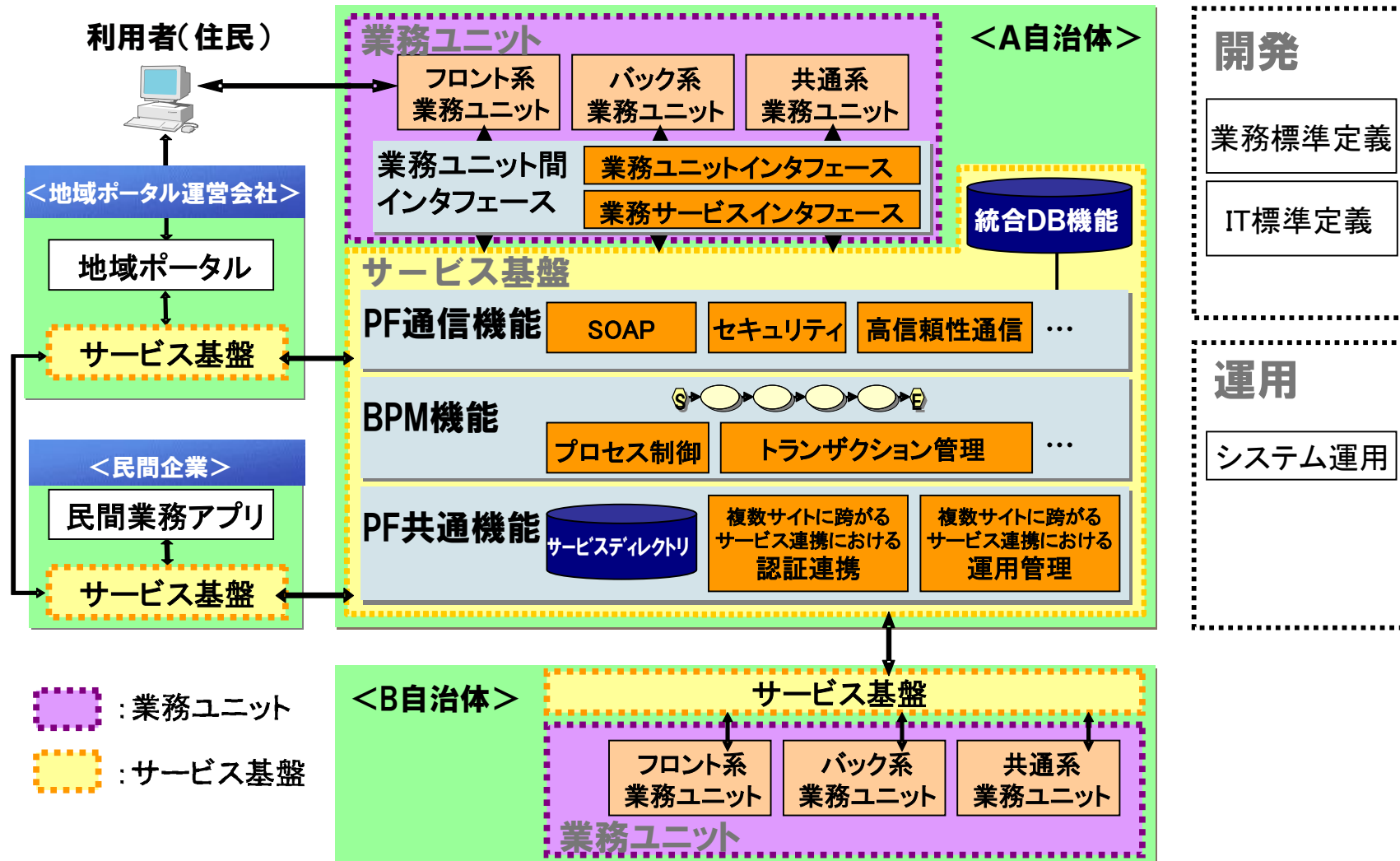
アーキテクチャ及び技術標準の採用方針

1. 標準化団体にて標準化が確定しているまたは検討中の仕様
2. ライセンスフリーの考え方を基本とした仕様
3. 自治体及び地域情報化で実現性が高い仕様
4. 標準仕様や相互接続ガイドラインで、相互接続の仕様が存在する仕様

サービス協調技術標準

	業務モデル標準	サービス協調技術標準
仕様	自治体及び民間が提供する地域情報サービスの連携に必要な業務アプリユニットのインタフェース仕様 ◆自治体業務アプリケーションユニット標準仕様	サービス連携を支える基盤アプリの諸要件・プロトコル等を取り決めた仕様 ◆アーキテクチャ標準仕様 ◆プラットフォーム通信標準仕様 ◆相互接続仕様
ガイドライン (指針)	仕様に準拠したサービス基盤、および業務アプリケーションを導入する調達者向けに必要な事項を、とりまとめたもの ◆地域情報プラットフォームガイドライン	◆地域情報プラットフォーム基本説明書 ◆地域情報プラットフォーム標準仕様運用規則

地域情報プラットフォームの全体アーキテクチャ

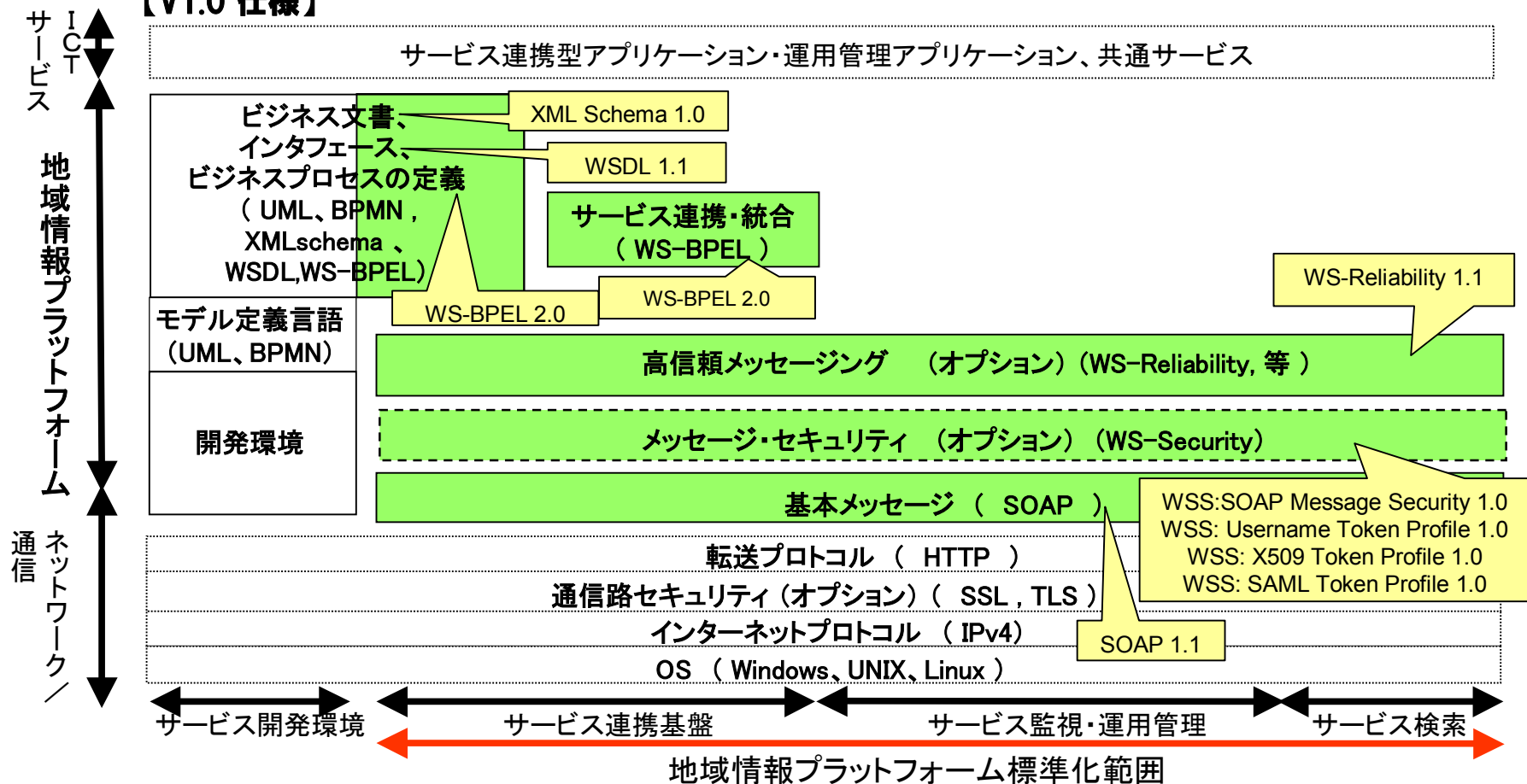


PF通信機能

PF通信機能

業務ユニット間のデータ交換及び、自治体内、自治体間、民間企業の業務サービスを通信により連携できるようにする機能

【V1.0 仕様】

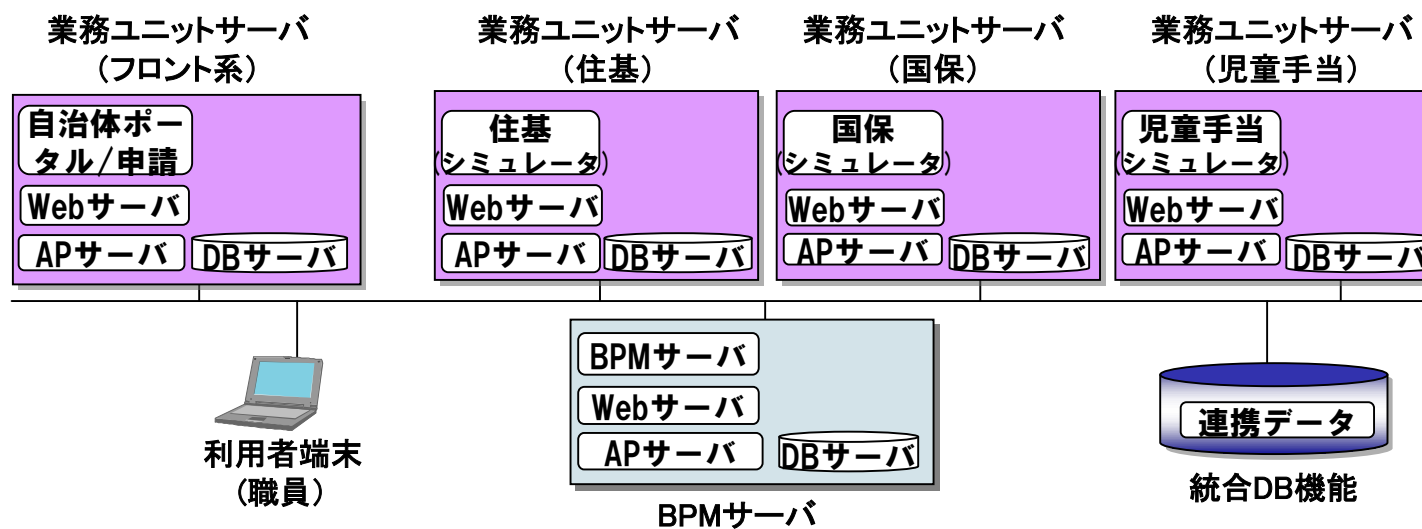


(参考) NICTにおけるPF通信機能の検証

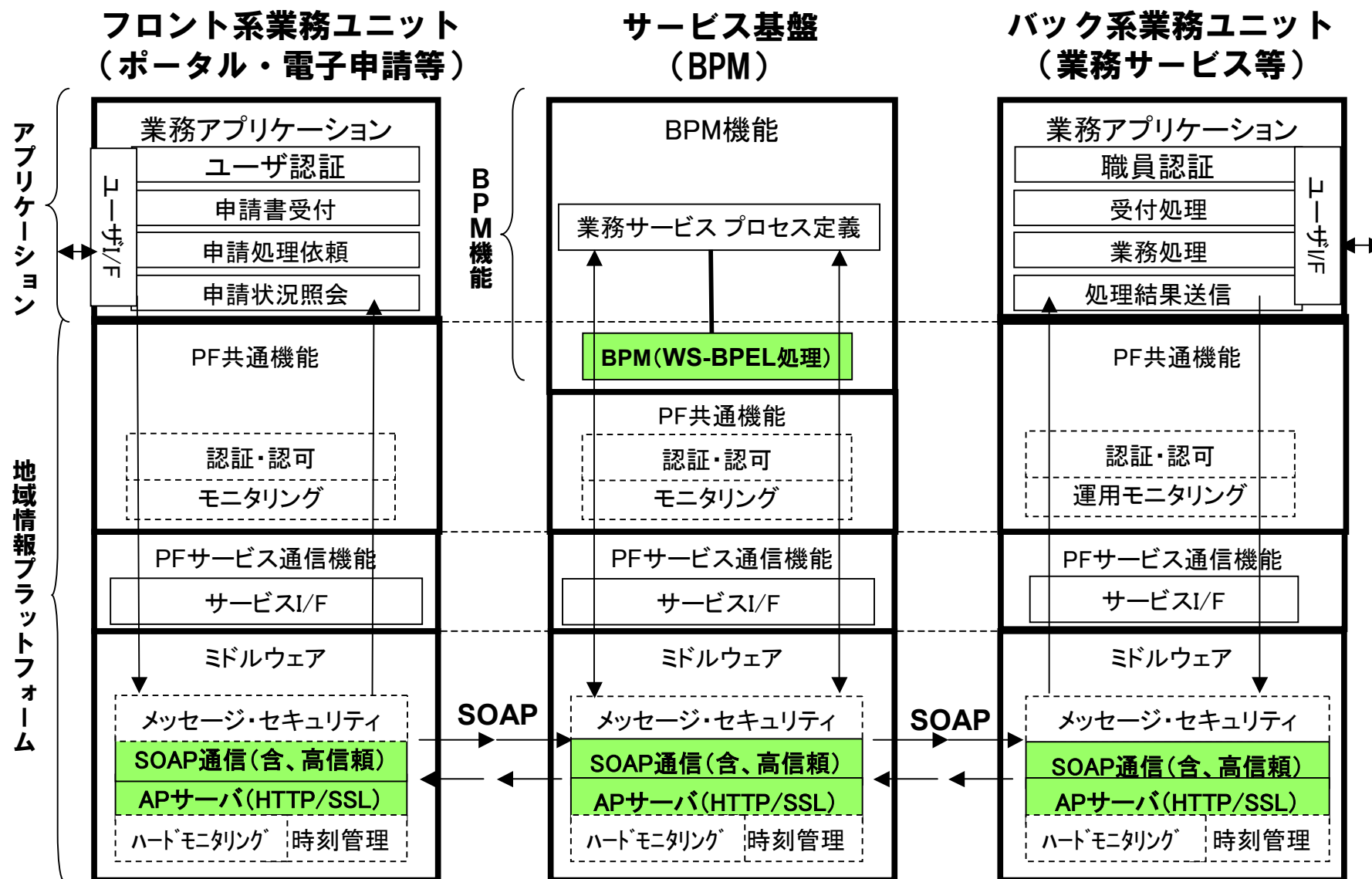
NICT 平成18年度の検証内容

- ビジネスプロセス制御によるワンストップサービス
- BPM,業務ユニットの差し替え
- 高信頼通信(コンフォーマンスツールにより検証)

システム構成

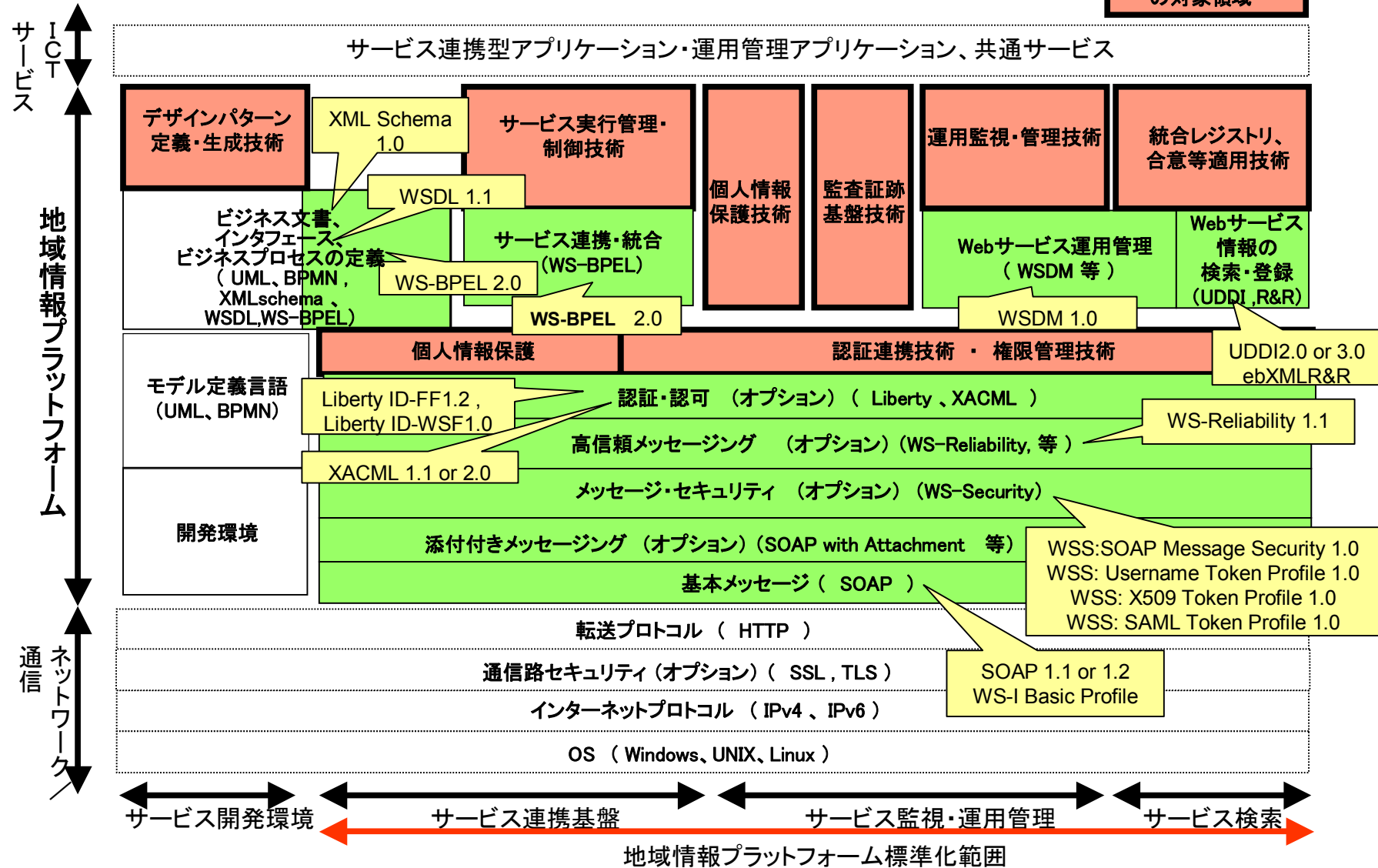


(参考) NICTにおけるPF通信機能の実装例



PF通信機能(H19年度仕様候補)

NiCT研究の成果
の対象領域

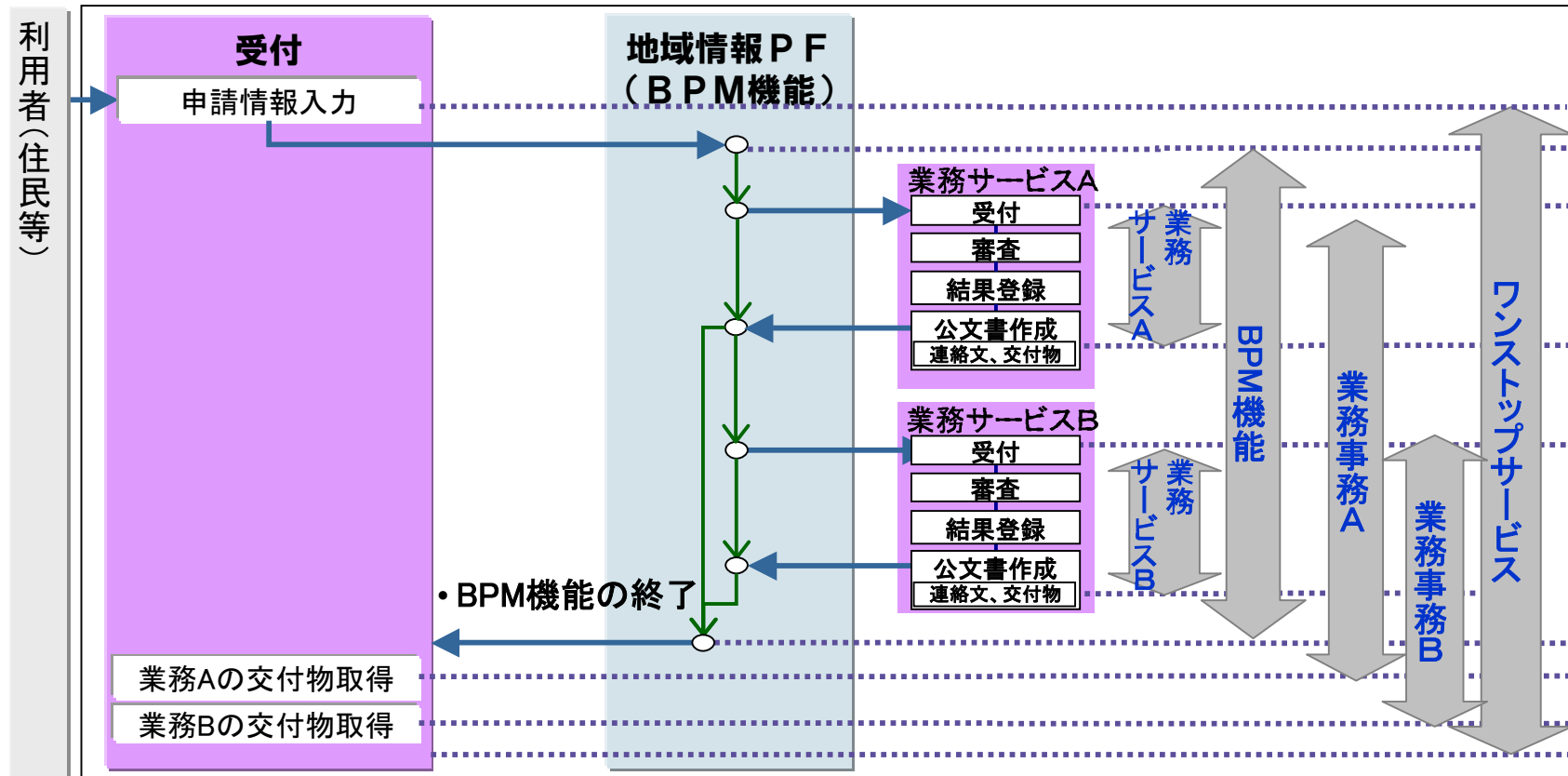


BPM機能

BPM機能

業務ユニットに跨った複数のサービスの実行管理を行い、サービスを順次実行させることによりサービス連携を可能とする機能

BPM機能を用いたワンストップサービスの処理イメージ

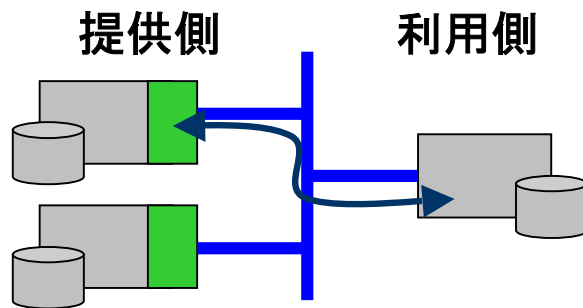


統合DB機能

統合DB機能

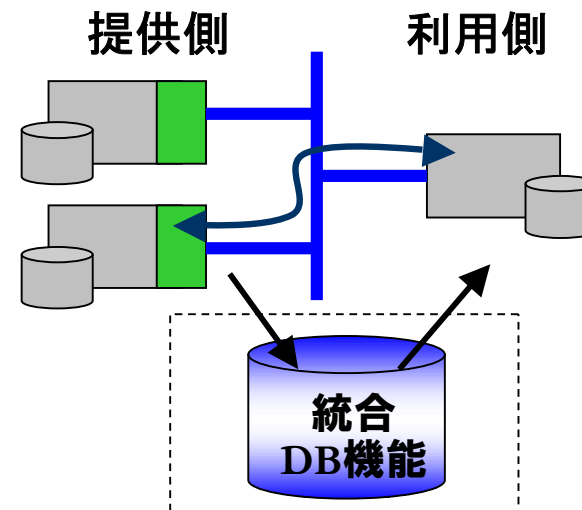
業務ユニット間で必要となるデータを統一的に管理することで、業務間のデータ連携および電子帳票の流通を効率的に実現する機能

【基本アーキテクチャ】



【統合DB機能を使用したデータ連携】

連携データを
統一的に管理



SOAPインターフェース

業務標準によってWSDLが定義され、PF標準準拠の業務ユニットに実装が義務付けられる



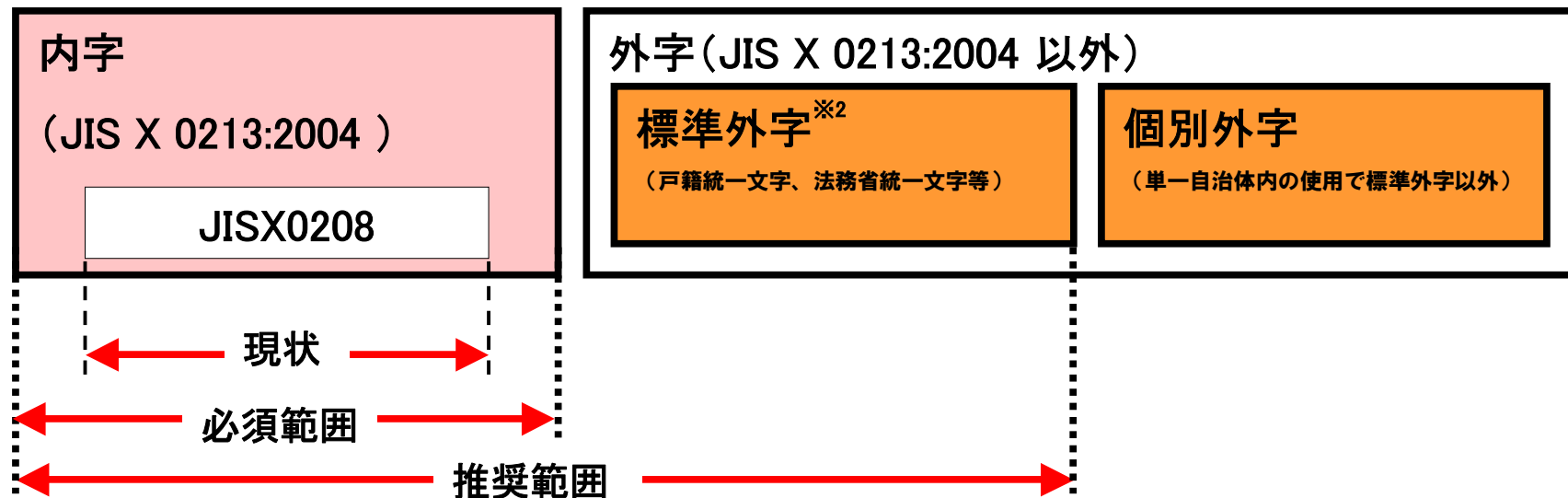
統合DB機能

業務標準によってデータモデルが定義される。公開用DB方式と共通I/F方式の2方式がある

プラットフォーム標準のXML定義仕様

～文字コード・外字に関する規則～

- ◆ V1.0の範疇では「内字」の利用（流通）を必須とする
- ◆ 「外字」については、PUA^{※1}を用いて表現し、自治体内で十分な管理がなされる範囲で流通を許す。ただし、「外字」の自治体外への発信は禁止する
- ◆ 「外字」は、V2.0対応の準備として、すべての「外字」と戸籍統一文字との対応表（マップ）を作成、管理することを推奨する。また、発展性の観点から「外字」の利用は、「標準外字」にとどめることを推奨する



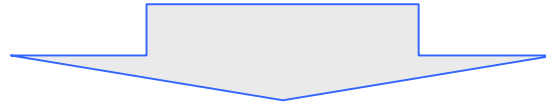
※1 PUA . . . Private Use Area

※2 標準外字 . . . すべての業務ユニットでその字形（文字イメージ）について事前の合意が形成されている文字

地域情報プラットフォームの標準仕様とは

標準仕様は、システム連携／統合のための技術仕様

- ・ほとんどのシステムベンダが採用している**グローバルスタンダードな技術仕様**
- ・**特定ベンダの製品や開発言語に依存しない**接続仕様
- ・**ダイナミックな接続**(必要な時に必要なサービスを接続)が可能
- ・**柔軟性の高いシステム**が構築できる
- ・**既存資産を有効活用**したシステム構築ができる
- ・**リアルタイムなシステム間連携**を実現できる



サービスを組み合わせることによって、スピーディに従来の系列を超えた、新たなサービスの提供／利用を可能にする

標準仕様V2.0の策定予定について

標準仕様V1.0を拡張し、複数サイトを跨るサービスを提供する際に必要とされるPF共通機能を中心に検討を拡大する予定

PF共通機能

- ◆ 認証・認可
- ◆ モニタリング
- ◆ ユーティリティ